

～ガバナーメッセージ

「歴史から学ぶ日本人の精神」

国際ロータリー第 2590 地区
ガバナー 湯川 孝 則



9月は、基本的教育と識字率向上月間ですので、それにちなんだお話をします。ロータリアンの年齢は、30代から90代と幅広いですが、この間の日本の教育については、様々な変遷があります。大きな教育改革が行われたのは、日本が戦争に負けて、アメリカの占領下で教育が行われた1945年でした。

戦前は、「人としての道」を、修身の授業を通して「偉人の生き方」などを示しながら具体的に子供たちに教えておりました。子供たちは、二宮尊徳、西郷隆盛、野口英世、上杉鷹山、ナイチンゲール、ジェンナー、ワシントンなど、偉人の生き方を参考にして、自分の生き方を学んでいたのです。また、当時は、国語教育が重視されていました。その理由は、日本語を学ぶことが知的活動の基礎であり、読書を通じ情緒や道徳を学ぶことができ、日本民族の歴史や伝統、文化を学ぶことができると考えられていたからです。

戦後は、良き日本の伝統文化を失いつつあるなか、青少年の学力低下やモラルの低下による問題行動などが起きています。個性の尊重を中心とした平等主義によって、道徳が崩壊しつつあるのかも知れません。

基本的教育と識字率向上を考えると、私たちは、我が国のことではなく、学校に通えない子供たちや読み書きのできない人たちが

暮らす後進国のことに思いをはせます。それはそれで大切なことだと思いますが、自分たちの国の教育や子供たちのこともしっかりと考えるべきではないでしょうか。日本の中にある貧困問題、子供たちの教育問題、モラルが低下した若者の増加、こうした現象にきちんと向き合って、将来の日本を明るくするために、本当に大切なことを考え、実践することが大切ではないでしょうか。

そこで、日本のことを世界に紹介し、ベストセラーになった名著をご紹介します。それは、東京女子大学初代学長となった新渡戸稲造氏が、1900（明治33）年に書きあげた『武士道』です。原文は、英語で書かれ、タイトルは、「The Soul of Japan」です。初版が刊行されると、ドイツ語、フランス語など各国語に訳されベストセラーとなり、セオドア・ルーズベルトやジョン・F・ケネディ大統領らに大きな感銘を与えました。

我が国は、経済大国として世界平和に貢献することが大切ですが、そのためには、優れた足跡を残した日本人の生き方や考え方を学び、世界で活躍できる若者を育成することではないでしょうか。若者が日本の歴史と文化を学び、国際交流や世界平和に貢献することを期待してやみません。